

カナダの田舎町で8か月を過ごして

今崎春翔

ニューファンドランド（カナダ）

私は今回の留学中、埼玉親善大使として、埼玉の魅力を会った人々に広める努力をしました。活動にあたって意識したことは、現地の生活に合わせたアピールをすることです。例えば、カナダは冬の時期、非常に日照時間が短く、ビタミン不足になりやすいという特徴があります。カナダ人はこれをサプリメントで補うのですが、私は埼玉の名産の一つである、梨のジャムを使って、ジャムジャムというニューファンドランドの伝統菓子を作り、友人にふるまいました。また、カナダ人は砂糖がたっぷりついたグミが好きな人が多いため、埼玉で有名なフルーツゼリーを持っていき、現地で仲良くなった人やルームメイトにプレゼントしました。もちろん、海外の人に知ってもらいたい埼玉の魅力や名産品はほかにもたくさんありましたが、まずは身近に感じてもらうことが必要だと感じていました。結果、私と出会うまで「埼玉」という地名を一度も聞いたことのなかった友人たちが、8か月たったころにはとても興味を持ってくれるようになり、「日本に行く時には埼玉を案内してね」と言ってくれる友人もいました。

このように、日本と似ていたり、親近感を感じたりする文化も多かったですが、それでもやはり、カルチャーショックを感じることは多々ありました。一番違いを感じたのは人との距離感です。カナダ人は一般的に、パーソナルスペースを重んじる人が多いと言われています。確かに、物理的な距離はしっかり確保しているように感じましたし、日本とあまり変わらなかったかもしれません。しかし、「心の距離」は日本と比べると、圧倒的に近かったように感じます。バスで隣の席になった人と会話を楽しむ、困っている人がいたら声をかける、レストランのウェイトレスと会話を楽しむなど、常に人とのつながりを感じながら生活している人が多かったです。食生活の面で困ることは、ほとんどありませんでした。多文化主義国家のカナダのスーパーには、様々な国から輸入された調味料や菓子、麺などが置かれており、日本のカレーやカップ麺、アイスなども置かれていました。カナダの国民食として有名なのはプティーンです。これはフライドポテトの上にグレイビーソースやチーズをのせたものです。このようなカナダらしい食事でも時々楽しむことができました。

カナダと聞くとトロントやバンクーバーを思い浮かべ、華やかな街をイメージする人も多いかと思いますが、私が留学していたニューファンドランドはとても静かで、のどかな田舎町でした。野兎やムースを何度も見ることができました。また美しい星々や川、雪、メープルの木々を友人たちと楽しんだことは

一生の思い出になりました。また、現地の人々もこの自然を大切に思い、愛しているのだと感じる埼玉の自然とは少し違った美しさを感じることができ、とても貴重な経験ができたと思います。



現地の様子



現地の様子



埼玉の紹介



埼玉のお土産